



資金調達の補足説明資料

株式会社ティムス

2025年3月14日

● 目的

□ TMS-007 (JX10) 臨床試験の確実な遂行

- ・ 次世代の脳梗塞治療薬として期待される、**TMS-007 (JX10) のグローバル治験「ORION」**（第Ⅱ相／第Ⅲ相臨床試験）を万全の体制で実施、確実に遂行





□ グローバルに存在感を示すパイプラインの構築・発展

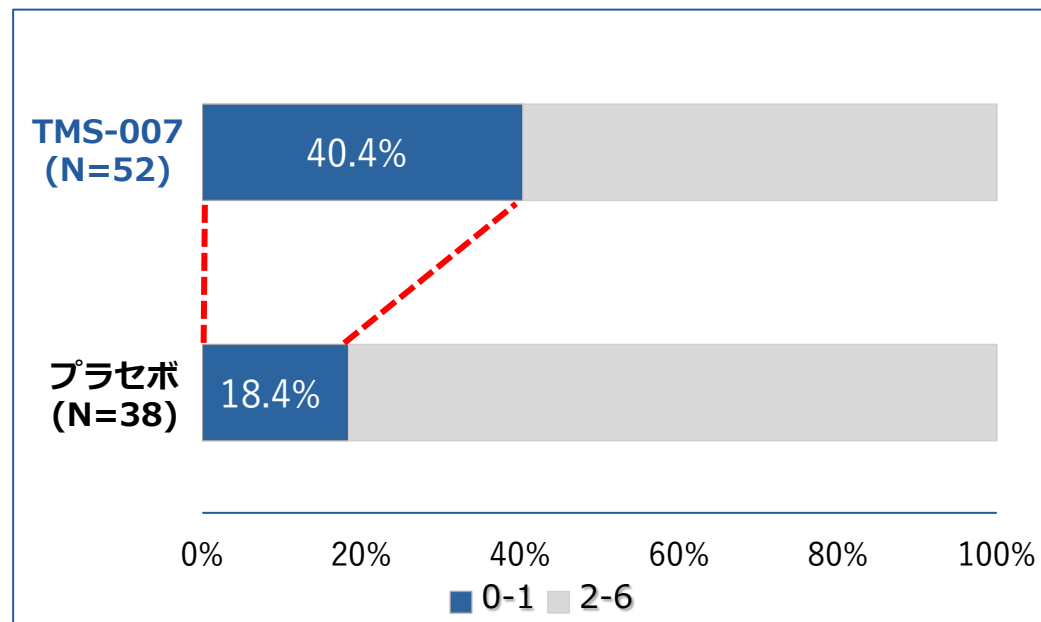
- ・ 臨床パイプライン**TMS-008**（急性腎障害）及び**JX09**（治療抵抗性高血圧）、前臨床パイプライン**TMS-010**（脊髄損傷）をさらに進展
- ・ アカデミア発の成果をグローバル市場に繋げた実績を活かし、**パイプラインを拡充**して更に企業価値の向上を図る

● ポイント

- 日本発で**世界に通用する医薬品**を生み出すバイオベンチャーとして成長するための、**安定的な財務基盤を確保**

TMS-007 : 前期第Ⅱ相臨床試験の結果（有効性）

mRS (modified Rankin Scale)		
	0	まったく症候がない
	1	症候はあっても明らかな障害はない : 日常の勤めや活動は行える
	2	軽度の障害 : 発症以前の活動がすべて行えるわけではないが、自分の身の回りのことは介助なしに行える
	3	中等度の障害 : 何らかの介助を必要とするが、歩行は介助なしに行える
	4	中等度から重度の障害 : 歩行や身体的要求には介助が必要である
	5	重度の障害 : 寝たきり、失禁状態、常に介護と見守りを必要とする
	6	死亡



- TMS-007は、**発症後12時間以内**の患者さんを対象として、**優れた有効性**を確認
 - 唯一のFDA承認薬は、原則として発症後4.5時間以内の投与
- 特に重視される「**90日後mRS**」において、**統計的有意差を伴う有効性**を達成
- CORXEL主導により**グローバル治験「ORION」**を開始済、当社は日本パートナーとして参加予定

開発コード	適応症	前臨床	IND	Ph1	Ph2	Ph3	開発/商業化	
TMS-007 (JX10)	急性期 脳梗塞	Ph1・Ph2aを当社が実施済 ORION試験 開始済					日本： 日本以外： CORXEL	Ph2a臨床試験で優れた成績を収める CORXEL主導でグローバル治験ORIONを開始
TMS-008	急性腎障害	Ph1試験 全例投与完了						急性腎障害を適応として承認された医薬品は無い
JX09	治療抵抗性 高血圧	豪でPh1試験実施中 (CORXEL)					日本： 日本以外： CORXEL	
TMS-010	脊髄損傷	北海道大学より導入						脊髄損傷を適応として承認された医薬品は無い

- TMS-007を筆頭に、**グローバル市場**を念頭に置いたパイプラインを構築
- 今後も、グローバル市場に展開可能な医薬品シーズを導入し、**パイプラインを拡充**する計画

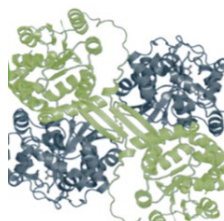
SMTP化合物の開発で培った知見・経験を活かし、社内・社外の2つの軸を追求



SMTP化合物で培った 研究開発力と事業展開力

社内プログラム

- 新たな低分子化合物
 - ・ TMS-008の新たな適応症
 - ・ sEH阻害剤
 - ・ 天然物スクリーニング
- 研究から臨床開発までを一気通貫で実施
- グローバルファーマとの提携実績



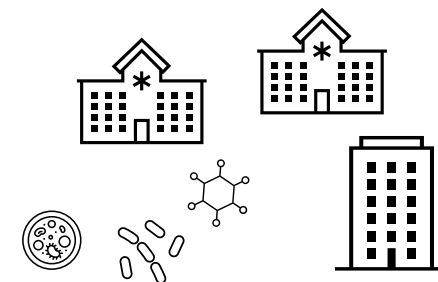
ヒトsEH

等

シーズ取得

共同研究

社外プログラム (アカデミア等)



グローバル市場



展 開

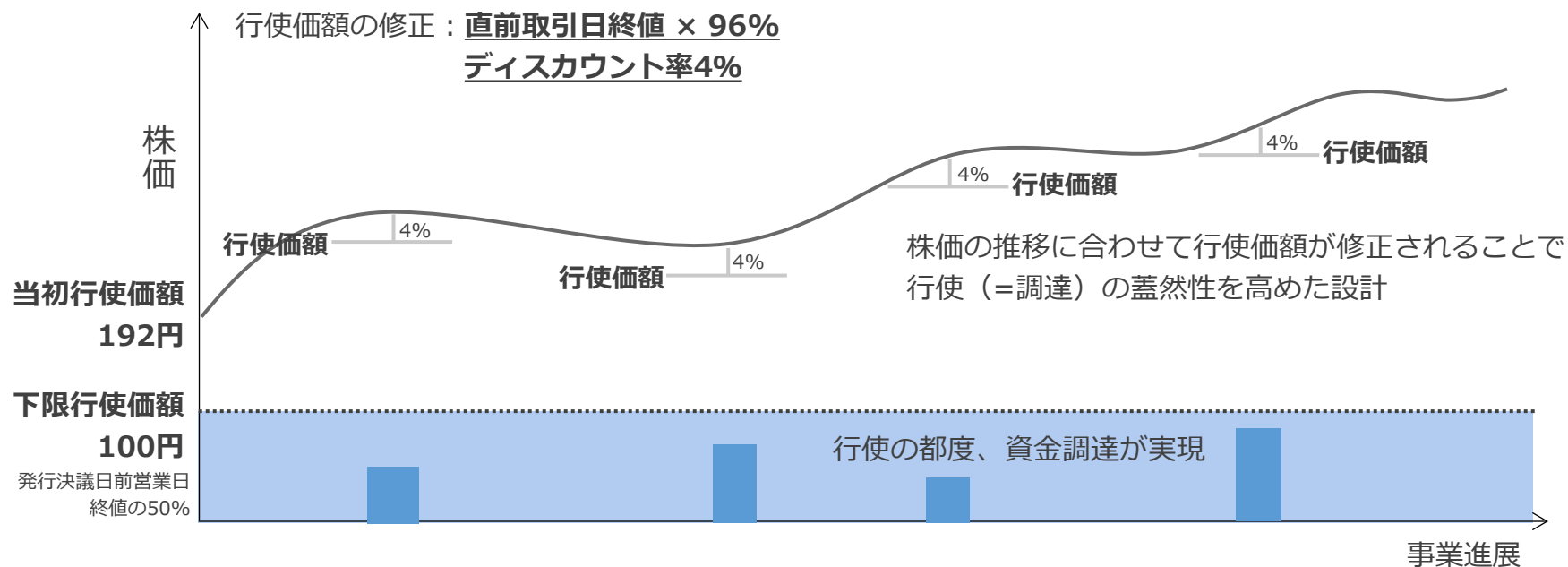
ライセンス等

※グローバル市場は日本市場の10倍以上

本スキームの特徴

- ・ 行使コミット条項が付されており、高い蓋然性をもって調達が可能
- ・ 行使停止条項が付されており、希薄化のタイミングについて一定程度のコントロールが可能

株価推移・行使価額のイメージ



第10回新株予約権（行使価額修正条項付）

項目	内容
割当日	2025年3月31日
発行新株予約権数	80,000個
潜在株式数	8,000,000株（新株予約権 1 個につき100株）
想定調達資金額	約1,521百万円（差引手取概算額）
当初行使価額	1株あたり 192円（発行決議日前営業日終値×96%）
下限行使価額	1株あたり 100円（発行決議日前営業日終値×50%）
行使価額修正条件	直前取引日の終値×96%
募集または割当方法	グロース・キャピタル株式会社に対する第三者割当
行使コミットメント	原則 2 年間
その他	譲渡制限、行使停止条項、取得条項

資金使途

- TMS-007（JX10）のORION試験実施費用
- TMS-008の開発を含む研究開発費用、及び運転資金

質問	回答
今回の資金調達スキームを選んだ理由は？	一時に大幅な株式価値の希薄化が生じることを抑制することが可能であり、既存株主の利益に配慮しながら当社の資金ニーズに対応しうる、現時点における最良の選択であると判断しました。
本スキームの主な特徴は？	2年間の行使コミットメント期間が設定されており、全部行使の蓋然性が高いと考えられます。また、取得条項があり、資金調達の必要性が低下した場合には、当社が本新株予約権を取得し、それ以降の希薄化を制限することができます。
希薄化の規模はどの程度か？	本新株予約権の全てが行使された場合、2025年2月28日時点の発行済株式総数40,330,067株に対して19.84%の希薄化が生じます。
割当先としてグロース・キャピタル株式会社を選定した理由は？	グロース・キャピタル株式会社からの提案が、既存株主の利益に配慮しつつ当社の資金ニーズを満たす最適な提案であると判断いたしました。また、同社が、資金調達にとどまらず多くの上場ベンチャー企業の支援実績を有すること等を総合的に勘案しました。
グロース・キャピタル株式会社に対して貸株をする予定はありますか？	当社並びに当社の役員、役員関係者及び大株主から貸株を行う予定はありません。
資金調達が想定どおり進まない場合の対応はどうなりますか？	手元資金の活用、他の方法による資金調達の実施、または事業計画の見直し等により対応します。また、提携等による希薄化を伴わない資金調達を積極的に検討します。

- 本資料は、企業情報等の提供のみを目的として当社が作成したものであり、日本、米国、その他の一切の法域における有価証券の勧誘を構成するものではありません。当社の有価証券への投資判断は、ご自身の判断で行うようお願いいたします。
- 本資料には、当社に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述がなされています。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。
- 本資料に含まれている医薬品（開発中のものを含みます）に関する情報は、当該医薬品の勧誘、宣伝または広告や、医学的アドバイスを目的とするものではありません。
- 本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の真実性、正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その真実性、正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。
- 本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。



www.tms-japan.co.jp